

冬期湛水水田による生物多様性の向上

稲の収穫後の水田に水を張る(冬期湛水)ことによって、水生生物や水鳥(渡り鳥)などが利用できる環境を再生するモデル事業。

「生物多様性 神戸プラン 2020」の重点事業の一つとして位置づけている。

1. 場所

北区长尾町宅原^{えいばら}の水田 20a (営農組合が管理する有機農法水田)



出典：国土地理院ホームページ
(<http://portal.cyberjapan.jp/site/mapuse4/index.html#zoom=15&lat=34.86977&lon=135.21871&layers=BITTT>)

2. 冬期湛水研究会

行政(環境局環境評価共生推進室、産業振興局農政部計画課)、市民団体、農業関係者(当該農地管理者、JA兵庫六甲)からなる「冬期湛水水田研究会」を組織した。豊岡での冬期湛水を実践してきた兵庫県農業改良課の西村いつき主任環境創造型農業専門員を招いて、これまでに5回の研究会を開催(うち2回は現地調査を含む)した。

3. これまでの実施状況

23年	6月	田植え、アイガモ放鳥
	8月	落水、カモ出し
	9月14日	第1回研究会
	9月28日	稲刈り
	10月24日	湛水前生物調査
	11月13日	湛水
24年	2月10日	湛水後生物調査
	3月7日	第2回研究会(現地調査)
	4月15日	落水、耕起
	5月13日	再湛水
	6月10日	田植え
	6月30日	藻類除去のため水抜き
	7月4日	注水。貝が大量発生

	7月7・11・19・24日	コナギ発生、除草
	8月1日	落水、除草
	9月6日	第3回研究会
	9月28日	刈入れ
	10月25日	秋季生物調査
	11月24日	湛水開始
	11月27日	第4回研究会
	2月15日	冬季生物調査
25年	3月11日	第5回研究会（現地調査）
	3月21日	給水停止、自然落水
	4月10日	早期湛水

4. 平成24年度の生物調査結果

(1) 鳥類

カルガモ（またはアイガモ）の羽を水田内で確認。夜間調査で冬鳥のコガモを3羽確認。コガモは当該水田内での食餌行動が観察された。（初確認）

(2) 植物

湛水後の冬季生物調査（2月）では水田内に植物はほとんど観察されなかった。

(3) 動物

哺乳類：（希少種情報のため非公開）

両生類：アマガエル、トノサマガエル、ヌマガエルを確認（昨年度同様）

水生昆虫類：トンボ類、ゲンゴロウ類、ガムシ類等を確認

(4) ベントス

トロトロ層（細かい泥の層：有機酸濃度が高く種子が埋没するため抑草効果がある）を形成するイトミミズ類の増加が確認された。

5. 今後のスケジュール（案）

25年	6月	田植え
	7月	夏季生物調査
	9月	稲刈り
	10月	秋季生物調査
	11月	湛水
26年	2月	冬季生物調査

6. 今後の進め方について

生物多様性を向上させるような冬期湛水の手法や技術向上策のほか、農業の活性化等も視野に入れた効果や課題をこれまでの湛水の経過・問題点を検証しながら、神戸の冬期湛水水田管理のモデル事業として進める。

※ 取組の詳細を、ホームページに掲載

<http://www.city.kobe.lg.jp/life/recycle/environmental/tayosei/denen2.htm>